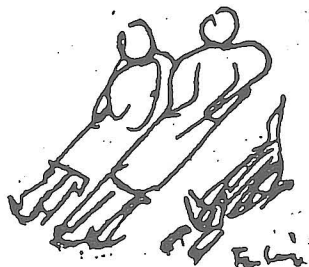


カルテ余録

(4)

岡島寛一



カット・露老原喜之助

当初、水俣近郊の地方奇病として一部少数の人にとりあげられたにすぎなかった水俣病も、今や日本全国、いや全世界の医学界が注視する病気になるてきたことは周知のとおりである。その原因については、まだ最後の結論にまでは至っていないけれども、熊本医科大学の特別研究班が苦心研究の結果「有機水銀による中毒」という線を打ち出して、まずそれに間違いなからうという事になってきているようだ。

この研究は、関係者一同の協力的成果にはかならないが、わけでも熊大公

水俣病と避妊薬

衆衛生学教授富田村博士(本年四月神戸医大に転任)の「患者頭髮からの水銀の検出」が大きな貢獻をしたことは特筆してもよろう。すなわち普通人の頭髮からは水銀が一二PPM(1PPMは百万分の一)のこと。以下単位を略記する(しか検出されないうのに、水俣病患者の頭髮からは四〇〇、七〇〇Pもの水銀が検出されて二回を驚かせた。そして現在発病していない人であっても、調べてみて三〇〇〜四〇〇Pが検出される場合は、発病のおそれが多分にあるとの指標となっている。

誰もが知っている消腫薬「赤チン」というのがある。以前からあった消腫薬「ヨードチンキ」が茶褐色をしているのにくらべて、このほうは赤い色をしてい

るので俗に「赤チン」と呼ばれているのだが、正しい名称は「マーキエクローム」で、その結晶には約二四%の水銀を含んでいる。私どもはこの赤チンをふんだんに使用するので、微量ではあろうがそれが皮膚から吸収されることが考えられるので、まず私の頭髮を検べてみたところ、六・二Pという結果を得た。普通人より少しは多いが、この程度なら問題はない。

近ごろは受胎調節が普及して避妊薬なるものが広く使用されている。これにはいろいろ種類があるが、酢酸フェニール水銀を主成分とする錠剤「セリ」剤が多い。これは百万倍ほどにすめたものでも精子をたどころに殺ししかも人体には無害だということで理想的な避妊薬(殺精子剤)として厚生省もその製造販売を許可し、むしろ推奨して広く一般に使用されている。

ところが、この酢酸フェニール水銀は、その名が示すように有機水銀で、しかも脂の粘膜は各種薬剤をよく吸収

する性質があるので、避妊薬運用者の体内には、これまた少なからぬ水銀が吸収されていることが想像される。そこで、そうした避妊薬を数年にわたって使用していることの判っている数人の婦人から、頭髮をもろって調べてみたところ、素に相違して私のより少なく、平均四Pという結果が出た。

水俣病をおこすためには三〇〇P以上の水銀の証明が指標となっていることは冒頭に述べたとおりで、従ってこの程度の含有量では、そして腫毒を起こすことはなからう、と一応安心できたことは幸いであるが、何ぶんにもまだ少数例であるので、もっと多数の実験をかかわり、それをあらゆる角度から検討してみたいと考えている。